

女子大学生のリクルートスーツに対するイメージ評価について

原田妙子・長縄さくら・舩田久依

Study on the Visual Image Analysis of Recruit Suits of Women's University Student

Taeko HARADA, Sakura NAGANAWA and Hisayo MASUDA

緒 言

日本経済の不況がやや持ち直しつつあると言われている現在、女子大学生の就職活動は未だ厳しく、就職活動の会社訪問や就職試験に臨む大学生は、リクルートスーツと呼ばれる就職活動用の衣服を着用して、活動している姿がよく見られる。リクルートスーツの着用目的は、主として自分を企業に、より売り込むためと考えられるにもかかわらず、リクルートスーツを着た学生のほとんどが同じように見えていると思われる。しかし、リクルートスーツに関する研究は少なく、着用者側の感情、意識を検討したもの^{1) 2)} や意識・イメージと着用実態の報告³⁾ はあるものの、着用者を見て評価したものは、プロポーションとスーツの着装評価との関連の報告¹⁾ はあるが、リクルートスーツとして見た評価を検討したものは見られない。

そこで本研究では、女子大学生がリクルートスーツを着用したときにどう見られたいと思っているかを把握し、実際に第三者から期待通りに見えているのかを確認するための検討を行うこととした。研究内容は、まずリクルートスーツに対して持っているイメージのアンケート調査として、入手実態のアンケート調査、着装することによってどう見られたいかのアンケート調査などを行い、それを踏まえて本当にそう見られているかを確認するために実際のリクルートスーツを着用した学生に対する着装評価を行った。それらの結果を検討することによって、今後、就職活動時の女子大学生に対して、リクルートスーツ着用時にその人の印象を上げるための助言ができるようにすることを目的とする。

方 法

1. リクルートスーツの実態についてのアンケート調査

- (1)調査対象者は、女子短大生1年生112名、2年生78名の合計190名である。その年齢構成は、18歳77人、19歳93人、20歳以上20人である。今回の調査が就職活動に関係することから、今後の分析は、学年での分類を用いることとし、図1にその属性を示す。内訳は、1年生112人、2年生78人である。

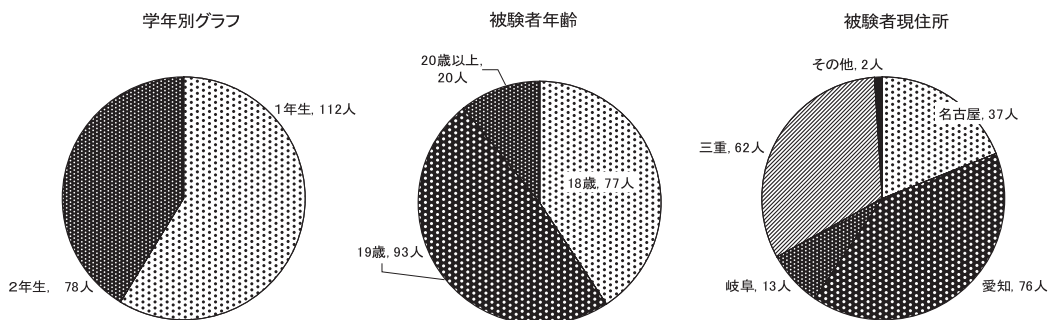


図1. 被験者の属性

- (2)調査の時期は、平成18年6月である。
- (3)調査はリクルートスーツについてのアンケート調査である。なお、調査方法は集合調査法で行った。アンケートの内容は、リクルートスーツの所持状況や購入状況について、リクルートスーツに対して持っているイメージについて(自由記述)、リクルートスーツを着ている自分がどう見られているか(自由記述)、またそれに満足しているかどうか、リクルートスーツを着てどう見られたいか(自由記述)などである。得られた結果は単純集計し、女子大学生が持っているリクルートスーツのイメージを把握し、理想と現状の違いなどを検討した。

2. リクルートスーツの着用写真による他者からの着装評価

- (1)調査時期は、平成18年7月である。
- (2)被験者は短期大学生2年生50名である。それぞれが実際の就職活動に着用しているリクルートスーツを着用してもらい、自然に立った状態で正面写真を撮影した。撮影前には、この実験の趣旨を伝えて、第三者に見てもらおうということを承諾してもらっている。
- (3)撮影した写真は、身長差が出ないように身長をほぼ一定にし、プロジェクターで投影したものを、被験者と面識のない検査者(女子大学生)115名により評価してもらった。評価項目は、先に調査したアンケートから「しっかりしたー頼りない」「清潔なー不潔な」「大人っぽいー子供っぽい」「きれいーきたない」「軽快なー重々しい」「地味ー派手」「かっこいいーかっこ悪い」「真面目ー不真面目」「上品なー下品な」「個性的なー平凡な」「できるーできない」「きちんとしたーだらしない」「硬いー柔らかい」「明るいー暗い」「好印象ー悪印象」の15項目の形容詞対を選んだ。それぞれの項目について、5～1の点数で評価を得て集計し平均値算出の後、因子分析を行い考察した。

結果および考察

1. リクルートスーツの購入状況について

リクルートスーツを購入している学生は、76.3%の145人であり、持っていない人の2倍以上になっている。また、図2に示したように学年別に見てみると、1年生が61.4%、2年生が84.6%

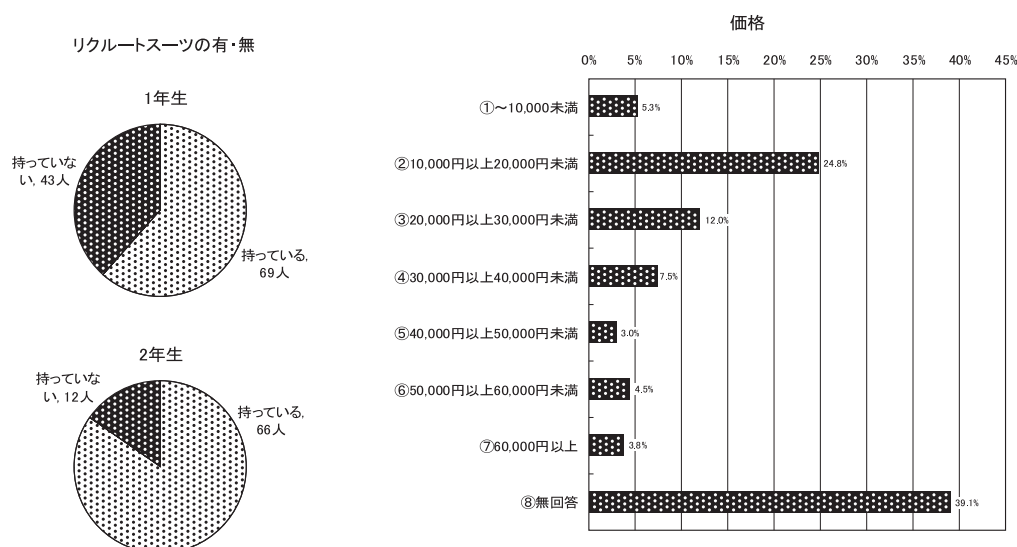


図2. リクルートスーツの購入

となり、当然就職活動中の2年生の方が多いが、1年生でも半数以上が所持している。これは、入学時のスーツ購入において、リクルートスーツにも着られるという購入時のアドバイスの影響と思われる。その購入価格を見ると、10,000～20,000円が最も多く、次いで20,000～30,000円であり、一般のスーツの価格よりやや安い価格帯になっている。購入場所として量販店での購入が21.1%挙げられていることが関係していると推察できる。

購入時期については、就職活動が始まる頃の3月、春あるいは1年生の入学前である時期が62.4%と最も多い。次いで就職活動開始に備えて購入したと思われる1月、2月、冬が12.1%となっている。

購入したリクルートスーツのデザインについてみると、スカートが82.7%と多く、中でも63.2%がタイトスカートである。パンツは50.4%のほぼ半数が購入したと答えており、パンツスーツとして購入した人のほかにスカートとパンツのどちらでも着用できるようセットで購入している人もいると考えられ、このことは、以前と比べ変化したことである。また、ボタンの数は、2個が35.3%、3個が33.1%をあわせて68.4%であった。

購入時の店員からのアドバイスでは、先に述べたように入学式に着用するスーツを購入するときに就職活動に着ることができるというアドバイスのほかには、スカート丈はひざの上下がいい、体に合ったものがないといったサイズに関してのものが多かった。また、ボタンの個数についてのアドバイスも多く見られたが、「1つボタンの方がズボンに似合う」「今はボタンの少ないほうがスリムに見える」「今の流行は2つボタン」あるいは「1つボタンが今年の流行」「背が高いから3つボタンの方がバランスがいい」など店あるいは店員によってアドバイスが

異なっていた。これらのアドバイスとして挙げられていたことは、リクルートスーツのイメージを作ることの重要なポイントになっていると予想できる。

2. リクルートスーツを着たときに第三者からどう見られていると思うかについて

実際リクルートスーツを着たときに第三者からどう見られていると思うかの質問について、自由に記述してもらい、その結果をまとめたものを図

3に示す。最も多かったのは、「自分が今就職活動中である」と見られている」と思っている人が73名の38.4%である。次に、「真面目」が27名の14.2%と続くが、3番目に自分は「似合っていない・ぎこちない・地味」と思っている人が多く、20名の10.5%見られた。

そこで、自分の持っているリクルートスーツに対して、どのくらい満足しているかについて質問した結果を図4に示す。不満・やや不満を合わせると29.8%であり、満足・どちらかといえば満足を合わせた25.5%を上回っている。また、普通と答えた人が42.9%あり、日常ファッションに関心の高い女子大学生において、リクルートスーツは、おしゃれとは離れた無関心なものになっているのではないとも思われる。

次に、リクルートスーツを着た自分を第三者からどう見られたいのかについて同様に回答を得た。結果を図5に示す。上位から「真面目」「しっかりした」「清潔な」「かっこいい」「できる」が20名以上で、10%以上の人に上げられており、企業が望むと思われる人材像に見られることを期待し着用していることが現れている。

実際自分が思う第三者の評価と、理想の間には差があるにもかかわらず、

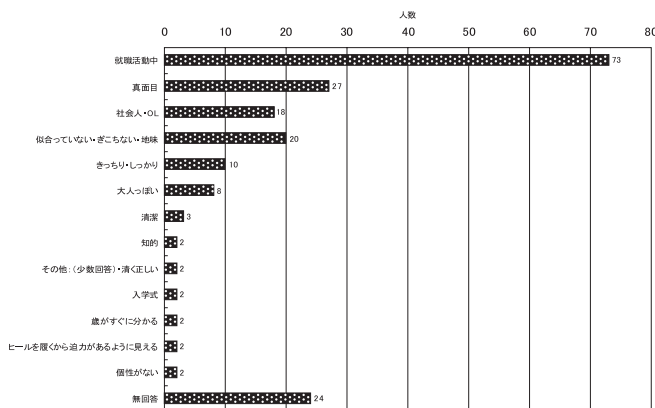


図3. リクルートスーツを着ているとき他者からどう見られているか

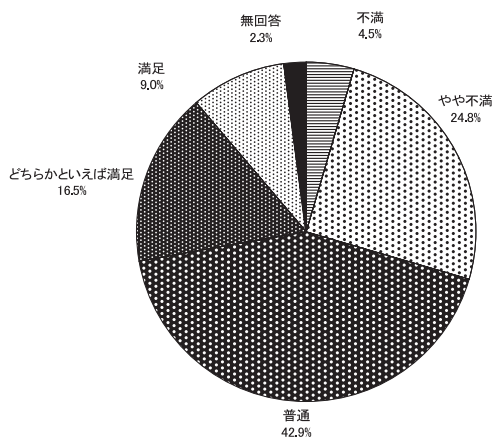


図4. リクルートスーツの満足度

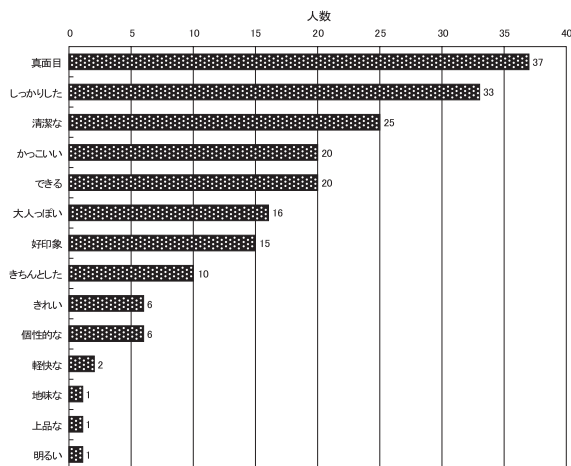


図5. リクルートスーツを着た自分をどうみられたいか

着装の工夫やこだわりをもっていないことが、リクルートスーツを着装した人が同じように見えていることに関係していると思われる。

3. リクルートスーツのイメージ

リクルートスーツに対して持っているイメージについての自由記述の結果を図6に示す。最も多かったのは、「就職活動中である」が約1/4の26.3%で最も多く、学年別に見ると2年生のほうが就職活動を意識していると思われ、倍以上の高い値を示している。次いで、「かっちり、しっかり、きっちり、すっきり」が23.7%である。その後「真面目」「清潔、清楚」「かっこいい」と続く。1年生と2年生ではほとんど似たような値を示しているが、「窮屈そう・動きにくそう・暑そう」と「大人っぽい」で1年生の値が若干多いことが、就職活動に直接かかわっている2年生との差が見られる。

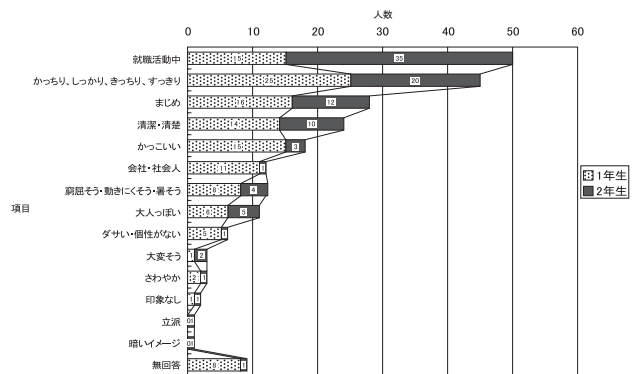


図6. リクルートスーツに対するイメージ

4. リクルートスーツ着用者の第三者評価

リクルートスーツを着用した被験者の着用写真による第三者からの着装評価を各被験者別に項目毎に平均値を算出した。その結果を図7に示す。全体の平均値では、3を切っている項目は、「かっこいい-かっこ悪い」と「個性的な-平凡な」の2項目だけであり、平均的にはリク

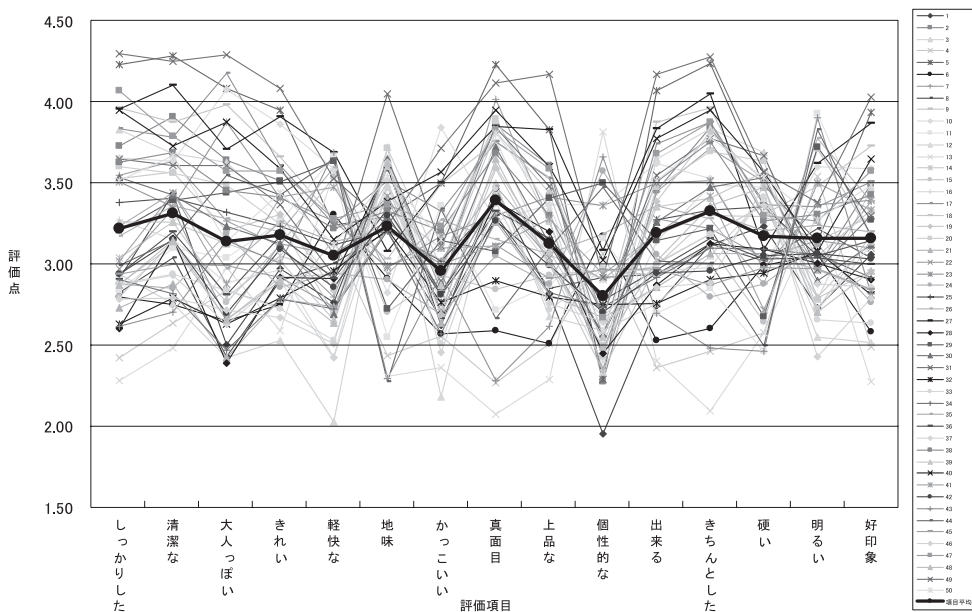


図7. リクルートスーツ着用者別 第三者評価結果（項目別）

ルートスーツを着用した人はあまりかっこよくなく平凡と評価されている。また「真面目な—不真面目な」が最も高い値を示し、やはりリクルートスーツの着用で真面目に見えているようである。個人による差が小さかった項目は「硬い—柔らかい」「軽快な—重々しい」「明るい—暗い」「かっこいい—かっこ悪い」であり、これらの項目はリクルートスーツの着用時には人によつての差が出にくい項目と考えられる。逆に大きかったものは「真面目な」「きちんとした」「しっかりした」であり、着装の方法やデザインで他の人と差をつけられる項目と考えられる。すべての項目で3以上の評価を得ている被験者は、1/5であった。また、No. 5とNo. 49の被験者において他の被験者より高い

値を示す項目が多く見られた。特にこの2人の被験者は、「しっかりした」「清潔な」「きれい」「真面目」「上品な」「できる」「きちんとした」「好印象」で1位・2位の評価を得ている。参考までに、この2者の写真を図8に示す。さらにこの被験者は、髪形がまとめてある、タイトスカートでありスカート丈は膝丈である、スーツのシルエットが体からあまりはなれていないストレートシルエットである、白のカッターシャツタイプのブラウスを第1ボタンをあけて着用しているなど共通点が認められた。このことは、今後のリクルートスーツの着装方法による評価要因に大きくかわる項目と考えられる。

5. 因子分析結果

第三者の評価で得た各被験者の平均値を用いて得た因子分析の結果を表1に示す。その結果、固有値1以上で2つの因子が得られ、その寄与率は91%であり、ほぼこの2因子でリクルートスーツの評価が決定され则认为られる。第1因子は、因子負荷量が全てプラスであり、項目を見ると「好印象」「できる」「清潔な」「上品な」「きれい」「しっかりした」「きちんとした」が0.9以上の負荷量を示す。これらは、第三者評価で被験者による差が大きかった項目であり、好印象を示す因子と考えられる。第2因子は、「暗い」「地味」が負荷量0.9以上であり、平凡さを示す因子と考え



図8. 被験者写真（各項目で最高点であった被験者）

表1. 因子分析結果

項目	第1因子	第2因子
好印象—悪印象	0.97	-0.039
できる—できない	0.963	0.184
清潔な—不潔な	0.961	0.123
上品な—下品な	0.959	0.101
きれい—きたない	0.958	-0.233
しっかりした—頼りない	0.954	0.212
きちんとした—だらしない	0.919	0.339
かっこいい—かっこ悪い	0.884	-0.364
大人っぽい—子供っぽい	0.875	-0.179
真面目—不真面目	0.693	0.69
明るい—暗い	0.26	-0.934
地味—派手	0.15	0.932
硬い—柔らかい	0.41	0.884
軽快な—重々しい	0.385	-0.883
個性的な—平凡な	-0.166	-0.771
寄与率 (%)	58.946	32.072
累積寄与率 (%)	58.946	91.018

られる。これらの2因子は、主には第1因子で高得点を得ている被験者が就職活動に有利であると予想できるが、業種や職種によっては第2因子を主に考える企業があることも考えられるため、今後、企業側の評価などについても検討すべきであるという課題が残された。

ま と め

女子大学生のリクルートスーツ購入状況と着用時の期待項目を把握し、第三者から期待通りに見えているかを確認することで、就職活動時の印象を上げる助言ができるようにすることを目的とした。リクルートスーツを購入している学生は持っていない人の2倍以上になっている。実際着用して、自分は「似合わない・ぎこちない」と思っている人が多いが、着用によって「真面目」「清潔」「大人っぽい」「できる」「しっかりした」など、企業が望む人材像に見られることを期待している。リクルートスーツのイメージは、「就職活動中」が最も多く、「きちんとした」「真面目」「清潔」と続く。第三者の評価でリクルートスーツを着用した人はあまりかっこよくなく平凡と評価され、さらに真面目に見えている。個人による差は「硬い」「軽快な」「明るい」「かっこいい」で小さく、「真面目な」「きちんとした」「しっかりした」で大きい。高得点の被験者には、いくつかの共通点が認められた。因子分析の結果、第1因子は企業が積極的に望む人材像を示す因子が得られた。今後、評価するときの基準となる要因をさらに検討するとともに、企業側の評価も検討したいと考える。

文 献

- 1) 泉加代子, 関口哲生, 田岡洋子, 成田巳代子, 西原容以: 家政誌, 45, 683-691 (1995)
- 2) 内藤章江, 小林茂雄: 織消誌, 44, 666-672 (2003)
- 3) 中野克美, 神山進, 今村律子, 奥窪朝子: 大阪教育大学紀要, 45, 13-24 (1996)
- 4) 庄山茂子, 今岡春樹: 織消誌, 39, 773-786 (1998)